

ケ・ブランリー美術館はセーヌ川に沿って、エッフェル塔の足下に建てられている。

設計はジャン・ヌーベル。パリ市内では、アラブ世界研究所(1987)、カルティエ財団(1994)などを手がけている。開館は2006年になってからで、見学した時点でも部分的に工事が残っている箇所が目立っていた。

宮殿を改修し王家の所蔵品を後に公開したルーブル美術館や、万博のためにつくられた駅舎を改修したオルセー美術館とは異なり、新築されたタイプの美術館である。所蔵品はアジア・オセアニア・アフリカ・アメリカの各国(ヨーロッパ圏以外)から集められており、展示品の紹介をしているポスターもどこか原始的であった。

道路に面しているガラスでできた壁面のデザインや、起伏のあるランドスケープ、緑が生い茂った外壁、原色を使った突出した立体といった要素が建物を特徴づけており、新時代の美術館だといえる。

